

**名古屋市（山崎川流域）の100mm/h安心プランの登録証伝達式を行います**

名古屋市から申請された「第二期山崎川流域浸水対策推進プラン」が3月31日に「100mm/h安心プラン」に登録されました。

4月21日に名古屋市役所において国土交通省中部地方整備局長から名古屋市長への「100mm/h安心プラン」登録証伝達式を開催します。

**1. 伝達式**

- (1) 日時 令和2年4月21日(火) 午後1時30分から
- (2) 場所 市役所本庁舎5階 正庁（中区三の丸三丁目1番1号）
- (3) 参加者 国土交通省中部地方整備局長 勢田昌功  
名古屋市市長 河村たかし
- (4) 内容 「100mm/h安心プラン」登録証の伝達

**2. 今回登録された計画の概要 <別紙1>**

- (1) 計画名称 第二期山崎川流域浸水対策推進プラン
- (2) 対象地域 山崎川中流域
- (3) 主な取組 ・鉄道橋梁の改築及び河床掘削  
・雨水調整池排水ポンプ運用の効率化
- (4) 実施効果 交通結節点（新瑞橋駅周辺）地域における浸水被害を軽減  
（平成12年東海豪雨相当の雨が降った場合でも、床上浸水を約7割低減）

**3. 制度の概要 <別紙2>**

100mm/h安心プランは、いわゆる「ゲリラ豪雨」に対し、河川管理者及び下水道管理者による河川と下水道の整備に加え、住民（団体）や民間企業等の参画のもと、浸水被害の軽減を図るために実施する取組を定めた計画です。策定主体は市町村および河川管理者、下水道管理者等とし、水管理・国土保全局長において登録を行い、登録された事業については、交付金の重点配分等の支援を受けられます。

**4. その他**

伝達式冒頭より撮影等可能

**5. 配布先**

中部地方整備局記者クラブ

## &lt;問い合わせ先&gt;

国土交通省中部地方整備局

河川部 地域河川課 課長 すぎやまのりゆき 杉山紀行、課長補佐 あさいしんいち 浅井慎一

TEL (052)953-8257（直通）

建政部 都市整備課 課長 もりやまこうじ 森山幸司、課長補佐 かわちじゅんじ 川地淳司

TEL (052)953-8573（直通）

参考：名古屋市においても同様発表をしています。

名古屋市HP：<http://www.city.nagoya.jp/ryokuseidoboku/page/0000022264.html>

# [計画名称] 第二期山崎川流域浸水対策推進プラン

# 【愛知県名古屋市】

## プランの概要

本プランは、山崎川流域において、頻発化する局所的豪雨による浸水被害を踏まえ、治水上ネックとなっている鉄道橋梁の改築及び河床掘削等を実施するとともに、想定し得る最大規模の洪水・内水が一体となった浸水想定を基に、避難の確保に関する情報等を記載したハザードマップの作成・普及・啓発などのソフト対策を実施し、浸水被害の軽減を図るものである。

○ 計画期間：令和2年～令和15年 ※

○ 事業費：約134億円 ※

※ 本プランと一体となって実施する道路・鉄道事業の計画期間・事業費を除く

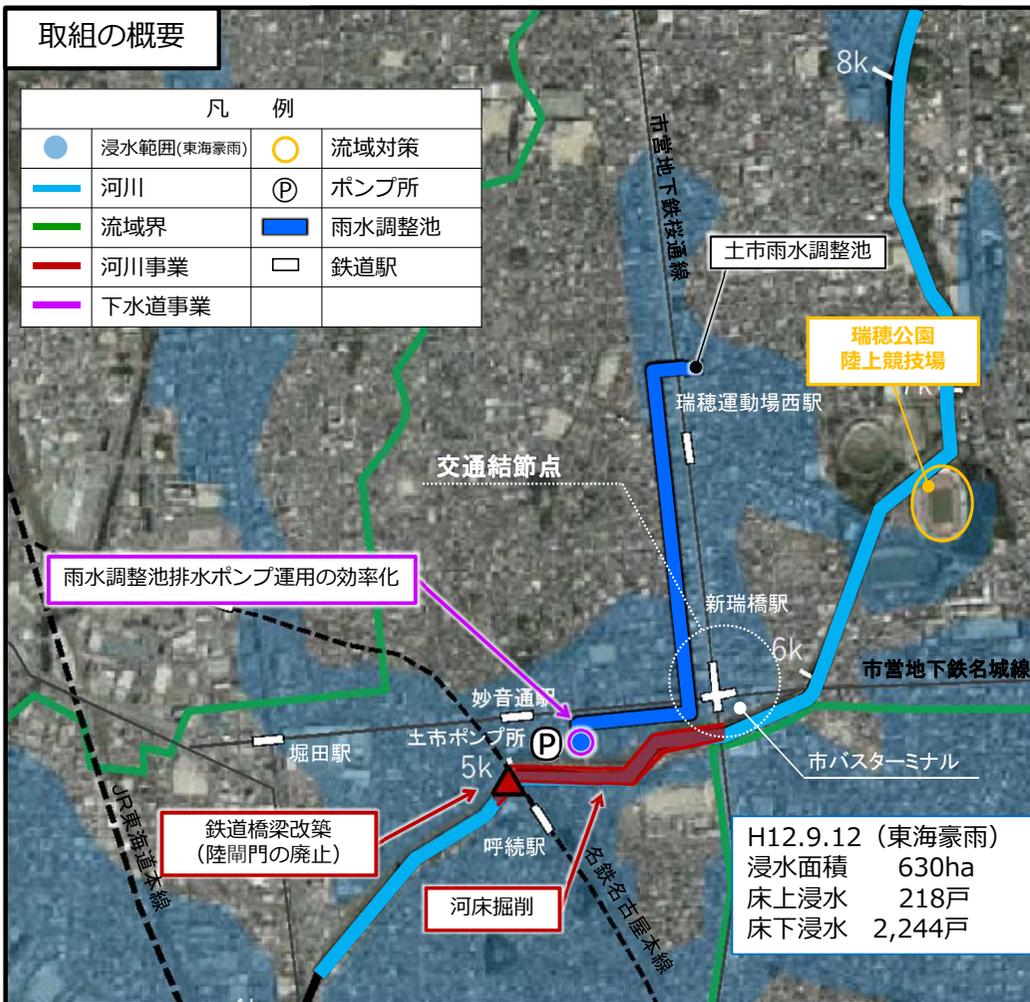
### 【近年の降雨実績等】

- ・山崎川流域では、過去から多くの浸水被害に見舞われ、平成12年東海豪雨では床上218戸、床下2,244戸の浸水被害が発生。
- ・近年、局所的豪雨が頻発化し、甚大な浸水被害が多発。愛知県における時間雨量50mm以上の発生回数は、
- ・S44～H5の25年間での発生回数は 6回
- ・H6～H30の25年間での発生回数は13回 → 約2.2倍  
(観測地点：名古屋地方気象台)



## 取組の概要

凡 例	
●	浸水範囲(東海豪雨)
○	流域対策
—	河川
Ⓟ	ポンプ所
—	流域界
■	雨水調整池
—	河川事業
□	鉄道駅
—	下水道事業



H12.9.12 (東海豪雨)  
 浸水面積 630ha  
 床上浸水 218戸  
 床下浸水 2,244戸

## 取組内容

- 河川・下水道
  - ・ **鉄道橋梁の改築及び河床掘削**
  - ・ **雨水調整池排水ポンプ運用の効率化**
- 流域対策
  - ・名古屋市防災条例 (H18.10月) に基づく雨水流出抑制対策
  - ・公共施設、開発事業者による雨水流出抑制施設の整備
  - ・道路、公園等における透水性舗装及び浸透雨水柵の設置
- 危険情報周知、水防活動
  - ・ **想定し得る最大規模の洪水・内水が一体となった浸水想定を基に、避難の確保に関する情報等を記載したハザードマップの作成、公表、全戸配布及び普及・啓発**
  - ・「地区防災カルテ」を活用した、浸水リスクの高い学区ごとの防災活動の実施
  - ・インターネットを利用した雨量、水位情報、道路・河川のカメラ画像、ポンプ運転情報の提供
  - ・名古屋市防災アプリによる現在位置の想定浸水深の可視化と避難場所の情報提供



## 推進体制

組織	名古屋市雨水流出抑制推進会議 (S62.3～)
市関係	上下水道局、防災危機管理局、総務局、財政局、市民経済局、観光文化交流局、環境局、健康福祉局、子ども青少年局、住宅都市局、緑政土木局、交通局、病院局、消防局、教育委員会

## 取組効果

- **交通結節点周辺地域における浸水被害を軽減** (H12東海豪雨時点から床上浸水約7割低減)
- **鉄道橋の架け替え (陸閘門の廃止) により、社会的損失 (鉄道運行休止) 及び氾濫リスクを軽減**

# 100mm/h安心プランの概要

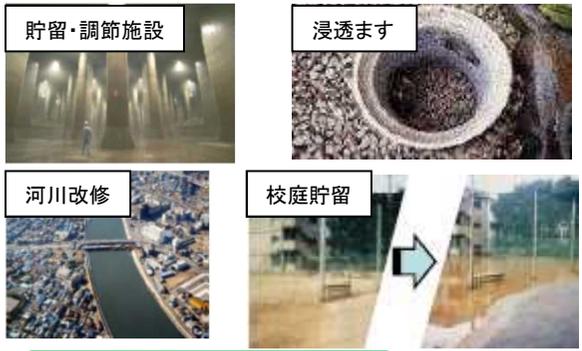
- ▶ 従来の計画降雨を超える、いわゆる「ゲリラ豪雨」に対し、住民が安心して暮らせるよう、関係分野の行政機関が役割分担し、住民(団体)や民間企業等の参画のもと、住宅地や市街地の浸水被害の軽減を図るために実施する取組を定めた計画を「100mm/h安心プラン」とする。
- ▶ 策定主体は市町村および河川管理者、下水道管理者等とし、水管理・国土保全局長において登録を行う。
- ▶ 登録した地域について、流域貯留浸透事業の交付要件を緩和することにより、計画的な流域治水対策の推進を図る。

### ●対象地域

河川事業および下水道事業が実施されている**住宅地や市街地の浸水被害の軽減**を図る地域

### ●計画策定主体

**市町村および河川管理者、下水道管理者(必須)**  
住民(団体)、民間企業等(任意)



### 期待される効果

- 協議会等の設置により、関係機関が連携した強力な推進体制が確立される。
- 河川や下水道等の連携により一層の効果的な整備が可能
- 住民等の参加により、地域の防災への意識が高まる

